

製品名: CREB-1 (リン酸化 Ser129) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04495**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	CREB1
別名	CREB1; Cyclic AMP-responsive element-binding protein 1; CREB-1; cAMP-responsive element-binding protein 1
遺伝子 ID	1385.0
SwissProt ID	P16220
免疫原	抗血清は、Ser129 のリン酸化部位周辺のヒト CREB 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 96-145

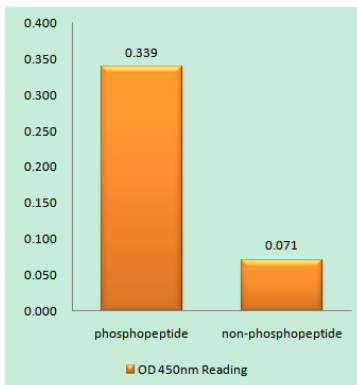
背景

この遺伝子は、DNA結合タンパク質のロイシンジッパーファミリーに属する転写因子をコードしています。このタンパク質は、八量体パリンドロームである cAMP 応答性エレメントにホモ二量体として結合します。このタンパク質はいくつかのプロテインキナーゼによってリン酸化され、cAMP 経路のホルモン刺激に応答して遺伝子の転写を誘導します。この遺伝子の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2016年3月]、疾患: CREB1に関連する染色体異常は、血管腫様線維性組織球腫 (AFH) [MIM:612160]と関連しています。CREB1 との転座 t(2;22)(q33;q12)は、この腫瘍型で最も一般的な遺伝子異常である EWSR1/CREB1 融合遺伝子を生成します。機能:このタンパク質は、多くのウイルスおよび細胞のプロモーターに存在する配列である cAMP 応答エレメント (CRE) に結合します。CREB は CRE に結合すると転写を刺激します。転写活性化は、Ser-133 のリン酸化とは独立して作用する TORC コアクチベーターによって促進されます。概日リズムの同期に関与しています。PTM:リン酸化によって刺激されます。SCN における Ser-133 と Ser-142 の両方のリン酸化は CREB の活性を調節し、概日リズムの生成に関与しています。Ser-133 のリン酸化は CREBBP の結合を可能にします (類似性による)。DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR によるものと考えられる。類似性: bZIP ファミリーに属する。類似性: 1つの bZIP ドメインを含む。類似性: 1つの KID (キナーゼ誘導性) ドメインを含む。サブユニット: PPRC1 と相互作用する。二量体として DNA に結合する。この二量体はマグネシウムイオンによって安定化される。bZIP ドメインを介して、コアクチベーター TORC1/CRTC1、TORC2/CRTC2、TORC3/CRTC3 と相互作用する。Ser-133 がリン酸化されると、CREBBP に結合する。

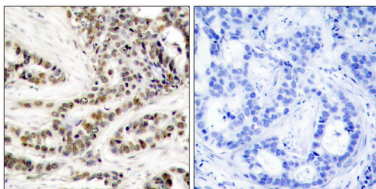
研究分野

抗原処理と提示、メラニン形成、ハンチントン病、前立腺癌。

画像データ



CREB (リン酸化 Ser129) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



CREB (リン酸化 Ser129) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。